

タカラスタANDARD株式会社

2022年3月期

# 決算説明資料

2022年5月12日

証券コード  
7981

水まわりって、大切だから

**Takara standard**

1. 2022年3月期 決算概要 P. 1 ~ 9
2. 2023年3月期 業績予想 P. 10 ~ 14
3. トピックス P. 15 ~ 24

売上高は過去最高を達成、営業利益は3割超の大幅増益  
売上高、営業利益ともにコロナ前の水準を大きく上回る

【売上高】 2,115億円 前期比 10.6%増 業績予想比 +4.6%

在宅時間の増加やコロナ禍における消費者行動の変化を受け、リフォーム向けが大きく増加。また新築向けも順調に推移したことから、過去最高の売上高となった。

【営業利益】 144億円 前期比 31.6%増 業績予想比 +3.1%

足元では資材価格高騰の影響があるものの、比較的利益率の高いリフォーム向けが大きく伸び、また経費削減の取組みが効果をあげたことから営業利益を押し上げた。

【年間配当】 52円 前年から 18円増配 配当性向 34.9%

期末配当は32円とし、中間配当を加えた年間配当は52円を予定。

(年間では、普通配当12円増配、創立110周年記念配当6円、計18円増配)

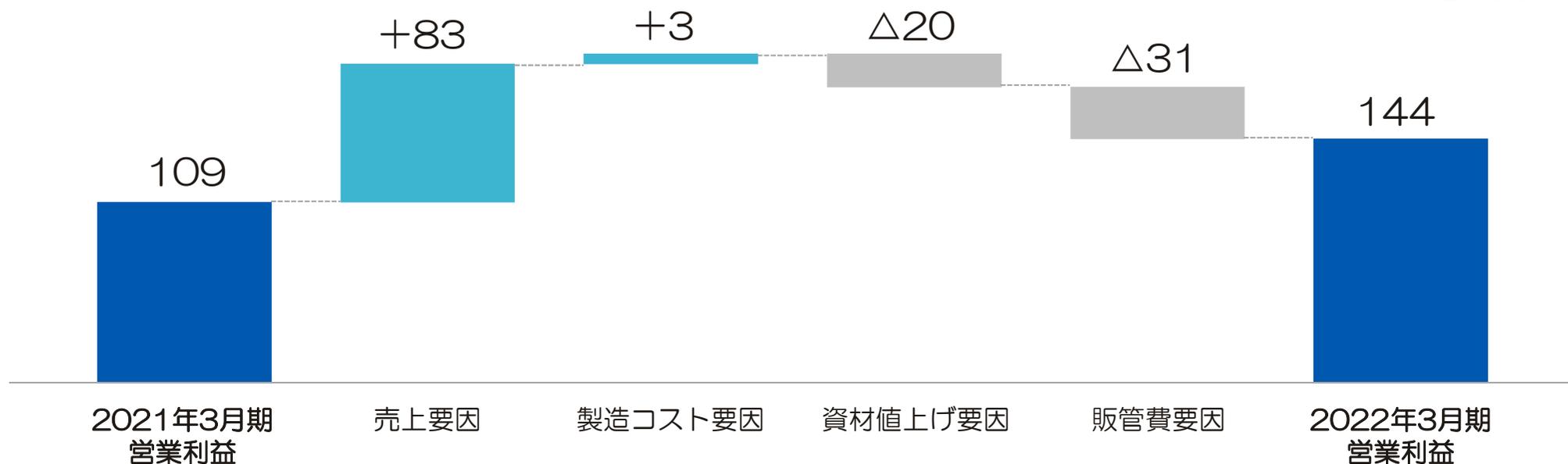
(単位：億円)

	2021年3月期 (※)		2022年3月期				2022年3月期 業績予想	
	金額	売上比	金額	売上比	増減	増減率	金額	業績予想比
売上高	1,912	100.0%	2,115	100.0%	+203	+10.6%	2,023	+4.6%
売上総利益	695	36.4%	761	36.0%	+66	+9.5%	—	—
販売費及び 一般管理費	585	30.6%	616	29.2%	+31	+5.4%	—	—
営業利益	109	5.7%	144	6.8%	+34	+31.6%	140	+3.1%
経常利益	113	6.0%	148	7.0%	+34	+30.4%	144	+3.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	75	4.0%	109	5.2%	+33	+43.7%	94	+16.0%
自己資本当期純利益率 (ROE)	4.4%		6.1%					

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を2022年3月期の期首から適用しており、2021年3月期に係る各数値については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

# 営業利益の増減要因

(単位：億円)

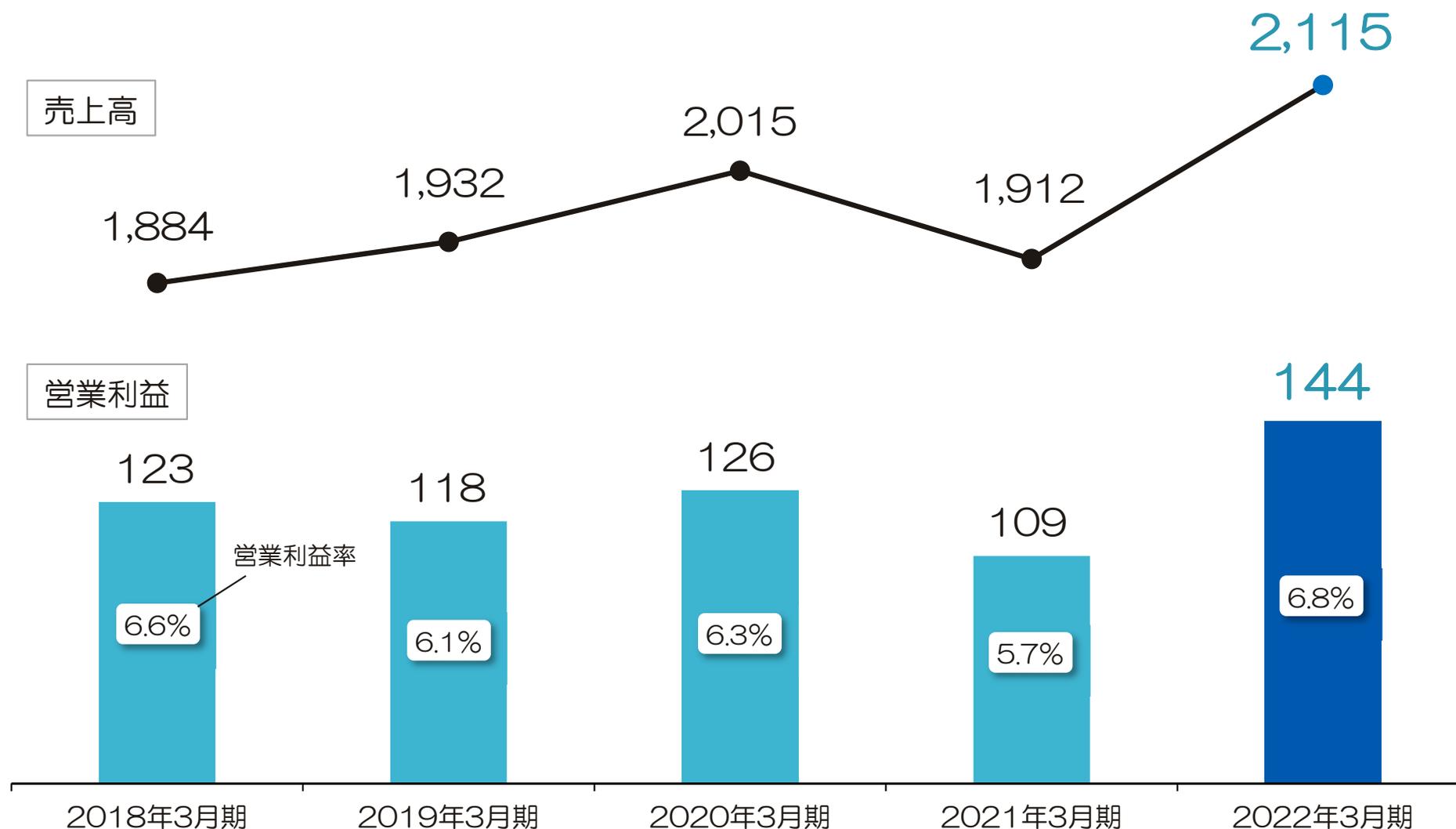


売上要因	比較的利益率の高いリフォーム向けが大きく伸び、特に中高級シリーズが好調であった。また新築向けにおいても順調に推移した。
製造コスト要因	生産量増加に伴う生産効率の改善や、合理化投資による生産性向上が製造コストの削減に寄与した。
資材値上げ要因	主要資材である鋼板、ステンレス、樹脂原料などの市況の高騰により、大幅なコストアップとなった。
販管費要因	WEB会議の定着による出張旅費抑制など、経費削減の取組みにより販管費率は大幅に低下したが（前期 30.6% → 当期 29.2%）、売上の増加に伴い物流費を中心に増加した。

# 売上高 及び 営業利益の推移

Takara standard

(単位：億円)



※「収益認識に関する会計基準」等の適用に伴い、2021年3月期は遡って適用した数値となっておりますが、2020年3月期以前の各数値は遡及適用しておりません。

主要3部門とも好調に推移。

キッチン部門は、マット調の扉カラーを新発売した「レミュー」をはじめとする全シリーズで前年を上回り、浴室部門ではパネルデザインの強化により中高級シリーズが大きく伸びた。

(単位：億円)

	2021年3月期		2022年3月期			
	金額	構成比	金額	構成比	増減	増減率
キッチン	1,154	60.4%	1,283	60.7%	+128	+11.1%
浴室	413	21.6%	474	22.4%	+60	+14.7%
洗面化粧台	225	11.8%	240	11.4%	+14	+6.6%
その他共計	1,912	100.0%	2,115	100.0%	+203	+10.6%

台数増減率	
当社	キッチン・バス工業会(※)
+5.2%	+2.0%
+14.4%	+7.5%
+4.6%	+3.2%

※キッチン・バス工業会の台数増減率は、システムキッチン合計、システムバスの戸建住宅合計、洗面化粧台合計の対前期増減率を記載

【内数】

パネル関連売上	52	2.7%	59	2.8%	+7	+14.2%
---------	----	------	----	------	----	--------

新築、リフォームともに好調で前年を大幅に上回った。特にリフォーム向けは住環境への意識の高まりにより +15.5%と大きく伸び、構成比は33.0%（対前年 +1.4ポイント）となった。

（単位：億円）

	2021年3月期		2022年3月期			
	金額	構成比	金額	構成比	増減	増減率
新 築	1,203	62.9%	1,309	61.9%	+105	+8.8%
リフォーム	605	31.6%	699	33.0%	+94	+15.5%
その他共 計	1,912	100.0%	2,115	100.0%	+203	+10.6%

2022年3月末の総資産は 2,768億円、前期末比 181億円の増加。

(単位：億円)

		2021年 3月末	2022年 3月末	増減	主な要因
資産	流動資産	1,487	1,704	+216	現金及び預金 +138 売上債権 +45
	固定資産	1,098	1,063	△34	投資有価証券 △34
資産合計		2,586	2,768	+181	
負債	流動負債	629	740	+110	仕入債務 +81
	固定負債	203	214	+10	
負債合計		833	954	+120	
純資産合計		1,753	1,814	+61	利益剰余金 +64
負債純資産合計		2,586	2,768	+181	

# キャッシュ・フローの状況

売上・利益ともに大きく伸びたことに加え、有形固定資産や投資有価証券の一部売却などにより、現金及び現金同等物の期末残高は前年を大幅に上回った。

(単位：億円)

	2021年 3月期	2022年 3月期	主な内容
現金及び現金同等物の期首残高	746	747	
営業活動によるキャッシュ・フロー	※ 79	196	税金等調整前当期純利益 157
投資活動によるキャッシュ・フロー	△53	△30	有形固定資産の取得による支出 △71 有形固定資産の売却による収入 27 投資有価証券の売却による収入 17
フリーキャッシュ・フロー	25	165	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△24	△27	配当金の支払 △27
現金及び現金同等物の期末残高	747	886	

※2021年3月期の営業活動によるキャッシュ・フローには、退職給付信託の設定による支出50億円が含まれております。

- 1. 2022年3月期 決算概要 P. 1 ~ 9
- 2. 2023年3月期 業績予想 P. 10 ~ 14
- 3. トピックス P. 15 ~ 24

国内経済は新型コロナウイルスの収束が未だ見通せないことに加え、世界的な原材料価格の高騰やウクライナ情勢に伴う世界経済の減速など、先行きは更に不透明な状況。

## 住宅市場

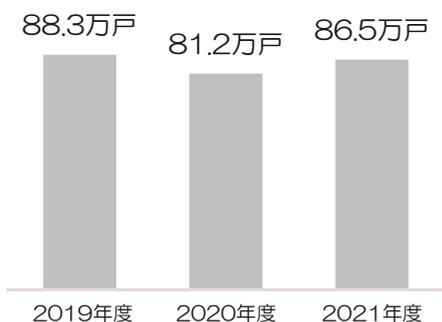
テレワークなど新たな働き方の浸透に伴う住環境への意識の高まりなどにより、新築市場、リフォーム市場とも底堅く推移することが見込まれる。

## 資材価格

世界各国での経済活動再開による需要の急拡大に加え、ウクライナ情勢に伴って物価上昇に拍車がかかり、金属・樹脂原料・木材など資材価格の高騰が続いている。

### 業界の動向

新設住宅着工戸数(国土交通省)



リフォーム市場でのキッチン出荷台数(キッチン・バス工業会)



### 資材の市況

冷延鋼板 (円/kg)



ナフサ (円/kl)



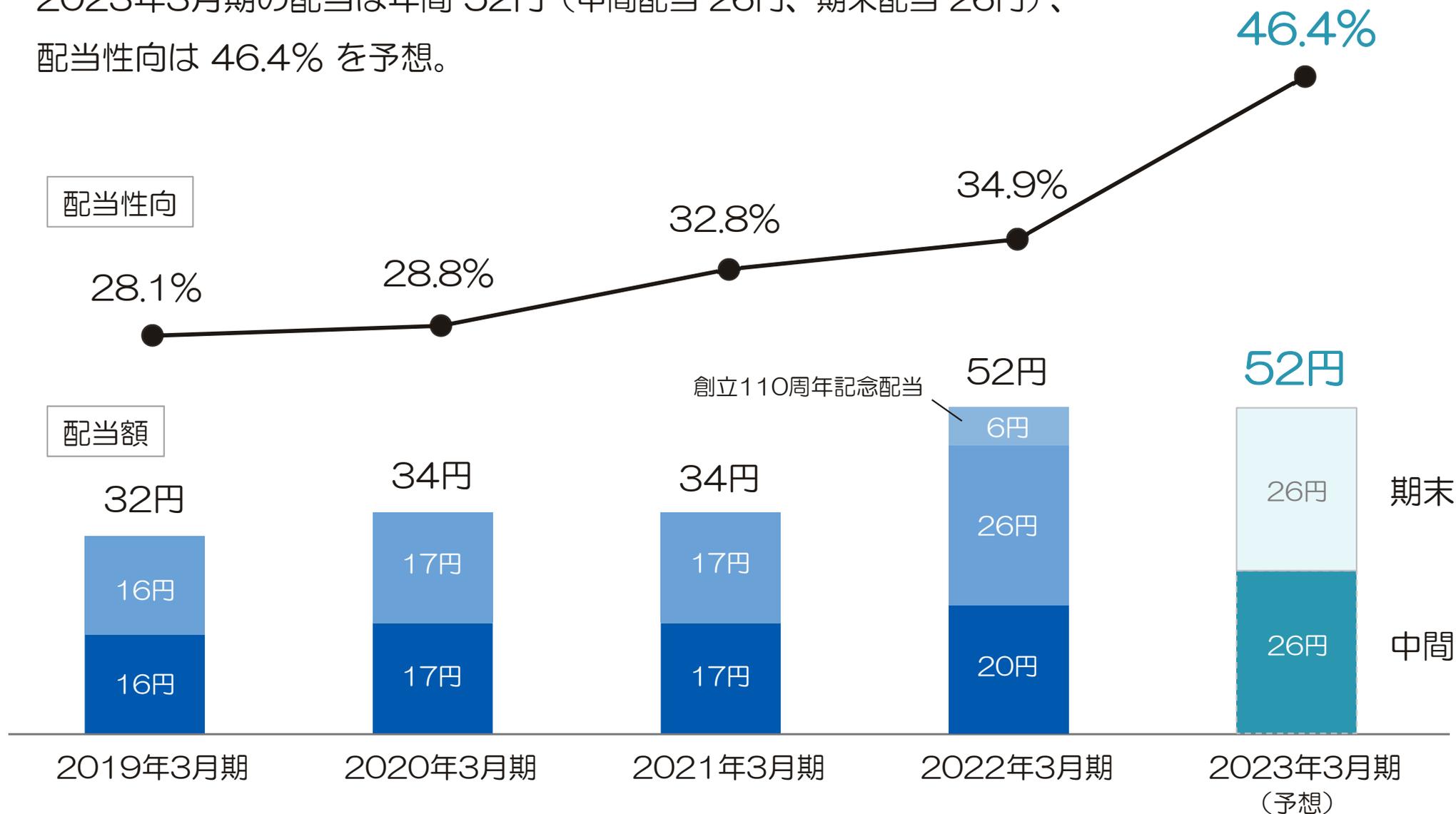
基本政策を推進し業績の拡大に努めるとともに、資材価格高騰への対策として生産性の向上や商品価格の改定などを実施するものの、未だ資材価格は上昇傾向にあり沈静化の兆しが見られないことから増収減益を予想。

(単位：億円)

	2022年3月期 実績	2023年3月期 予想	増減	増減率
売上高	2,115	2,176	+60	+2.8%
営業利益	144	123	△21	△14.8%
営業利益率	6.8%	5.7%	△1.1P	—
経常利益	148	127	△21	△14.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	109	82	△27	△24.8%

# 配当の状況

2023年3月期の配当は年間 52円（中間配当 26円、期末配当 26円）、  
配当性向は 46.4% を予想。



2023年3月期の設備投資は、生産設備の自動化・省人化への投資やIT関連投資など積極投資を計画。

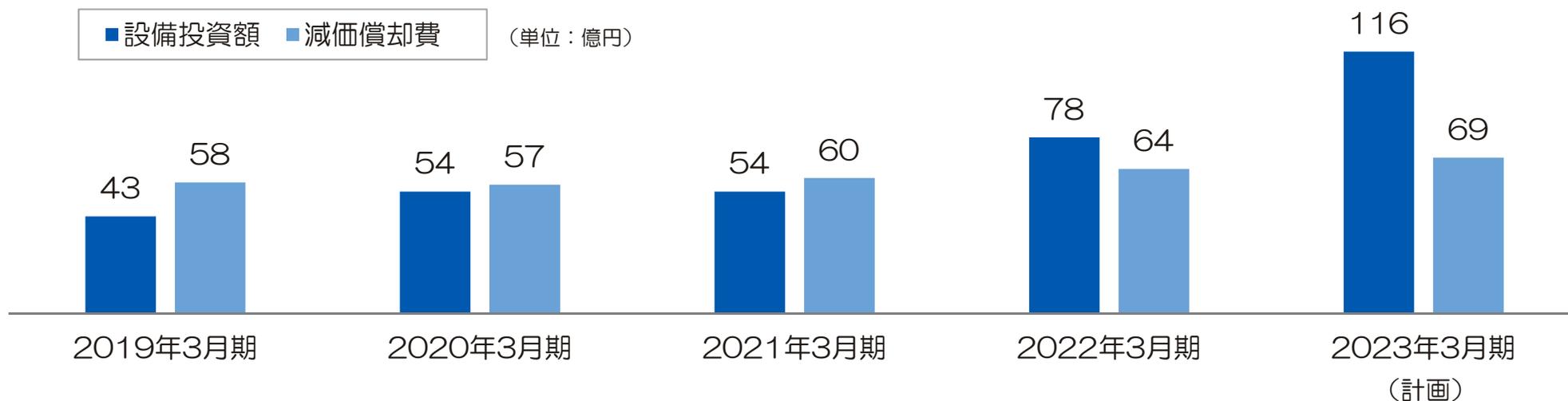
(単位：億円)

	2023年3月期 計画
設備投資額	116
減価償却費	69



(主な内訳) (単位：億円)

項目	金額	主な内容
生産関連	78	ロボット化、AGV化(無人搬送)などの生産効率化投資、他
システム関連	14	IT関連投資 (営業活動におけるデジタル化、インフラ整備、他)
建物・事務関連	16	オフィス環境整備、建物維持管理、他



1. 2022年3月期 決算概要 P. 1 ~ 9
2. 2023年3月期 業績予想 P. 10 ~ 14
- 3. トピックス P. 15 ~ 24**

フラッグシップモデルの「レミュー」に、焼き物調や金属錆調などをインクジェット印刷にてリアルに表現する、マット仕上げの扉柄をラインナップ。



「灰緑」(はいみどり)



本物の陶器をモチーフに  
焼き物特有のムラや貫入  
の風合いを表現。



「ラスティブラウン」



長い時間をかけて味わい  
深く表情を変えてゆく錆。  
そんな金属の移ろいを表現。

ホーロー洗面化粧台「エリーナ」に、マット仕上げの扉柄と光沢仕上げの大理石柄を発売。  
高級感あふれる洗面空間を実現。



「コンクリートダーク」



「ドラマチックホワイト」



「マルキーナブラック」

ホーローへのインクジェット印刷という独自の技術によって実現する、幅広いラインナップの精細なパネルデザインを、お好みに合わせてお選びいただけます。



「ジオマーブルモスグレー」



「ノルディックグリーン」



「デニムブルー」



ホーローならではの高い耐久性・清掃性・利便性・デザイン性により、住宅、非住宅を問わず様々なシーンにご活用いただけます。

### <住宅空間>

リビング



子供部屋



海外での納入事例



北京(中国)の大型集合住宅

### <非住宅空間>

駅の外壁



エレベーターホール



トイレ



地域の優良リフォーム店を紹介する「パートナーショップ検索サイト」をリニューアル。



リフォーム事例の検索機能や、サイトから直接パートナーショップに問い合わせができる機能を搭載

また、他にもお客様の情報収集に役立つコンテンツをご用意しております。

- 360° 見渡せるバーチャルショールーム
- VR機能を搭載したカラーシミュレーション
- ショールームのWEB予約システム



WEB活用によりショールームへの来場を促進

お客様が商品を「見て、触れて、納得」いただける地域密着型のショールームを展開。

**業界最多**

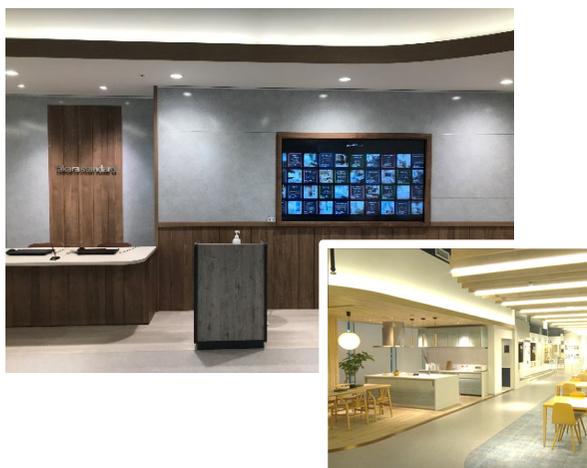
全国47都道府県に  
約170カ所



2021年度は新設 1カ所、移転 3カ所、リニューアル 3カ所を実施

新設	名古屋駅前ショールーム (愛知県)	2021年10月
移転	紀南ショールーム (和歌山県)	2021年10月
	山形ショールーム (山形県)	2021年11月
	佐世保ショールーム (長崎県)	2021年11月
リニューアル	成田ショールーム (千葉県)	2021年 9月
	大阪HDCショールーム (大阪府)	2021年 9月
	多摩ショールーム (東京都)	2022年 2月

名古屋駅前ショールーム



山形ショールーム



多摩ショールーム



土屋太鳳さんがCMキャラクターを務める当社CMを全国で放送しています。  
料理・掃除好きとして知られるロボットの馬場裕之さんをお客さまに迎え、自信をもって商品の紹介を行う3年目のショールームアドバイザー 土屋さんの頼もしい姿に是非ご注目ください。



※当社ホームページ（<https://www.takara-standard.co.jp/>）でもご覧いただけます。

初代通天閣は当社と同じ1912年に建設。共に大阪の地で誕生から110年を迎えることを記念して、通天閣がこのたび開業した巨大スライダーの乗り場に、ホーロー壁装材「エマウォール」を寄贈しました。当社はこれからも地域への貢献をはじめ、ESG活動に積極的に取り組んでまいります。



巨大スライダー施設「TOWER SLIDER」は通天閣が2022年5月9日に開業したアトラクション



新しいシンボルでより多くの観光客を誘致してこれからも大阪を盛り上げていきたい、という通天閣観光株式会社さまの思いに賛同し寄贈が決定。ホーローの高級感ある意匠性で、印象的な空間を演出しました。

< IRお問い合わせ先 >

タカラスタンダード株式会社

管理本部 財務部

TEL

06 - 6962 -1502

E-mail

[zaimu@takara-standard.co.jp](mailto:zaimu@takara-standard.co.jp)

水まわりって、大切だから

**Takara standard**

本資料は、2022年5月12日現在の計画に基づく予測が含まれています。これらの計画と予測は、リスクや不確定要因を含んだものであり、実際の業績が当社の計画と異なる結果となる可能性があります。